

ちむどん(胸がドキドキ)な 県内の人・モノ・コトを ご紹介します!

\* 今月のテーマ \*

## 進化する農業!

毎日、何気なく食べている県産の食材や加工品。生産者の努力とアイデアがもたらす進化する農業の取り組みをご紹介します。



①うるま市照間で栽培されるピーグ(い草)。量以外の様々な商品化により、照間ピーグは広く知れ渡りようになった。②・③美ら卵養鶏場の自慢の卵は、スイーツの開発、販売でより多くの人に食されている。④「美ら産フェア」では、農業系高校の生徒たちが自ら栽培、加工、調理、販売を行う。

### うるま市の照間ピーグ

焼き菓子という意外性が魅力! 上質なピーグが大変身

うるま市照間地区の特産・ピーグ(い草)。茎が太く、弾力性、吸湿性が高いのが特徴だ。量の原料として知られるピーグだが、うるま市では食品加工用のピーグを栽培、それをパウダー状に加工し、焼き菓子を商品化! その他、量になるまでに発生する多量の未利用資源を使った日用雑貨も開発、販売している。これらの商品が照間ピーグの知名度向上や後継者増加などに期待されている。



焼き菓子 [照間の食べる量 4畳半]



青々と育つピーグ



### 美ら卵養鶏場のスイーツ

おいしいスイーツから伝わる卵の素晴らしさ

飼料にこだわり、味には絶対の自信がある卵をもっと多くの人に味わって欲しいと養鶏場がケーキショップをオープン。自慢の卵をふんだんに使ったシフォンケーキやブッセ、プリンなどを開発、販売している。店頭ではもちろん新鮮な卵も購入できる。現在も味やパッケージなどのブラッシュアップを行う。

沖縄県主催「おきなわ島ふ〜どグランプリ2017」で優秀賞を受賞した一品。養鶏場がある南風原町の商工会認定商品にも選ばれた。



### 「高校生美ら産フェア」の開催

次世代のハルサーの活躍に期待!

平成29年で21回目を数える。産業教育を学ぶ専門高校や特別支援学校の生徒たちが日頃の学びの成果を披露。農業部門では、県内6つの農業系高校の生徒たちによるパネル展示や育てた野菜を使った食品加工品の開発や販売等を行う。沖縄の未来の農業を支える若いパワーに注目!



食材と向き合うだけが農業高校の全てではない。日々学んでいることをパネルにまとめたり、来場者に説明するなど「伝えること」も大切。

### 今、注目を ハルサー& 取り組み

### インターナショナルローカルの野菜工場

市場拡大が期待される農業の未来のカタチ

環境をコントロールされたコンテナ内で葉野菜や小さな根菜類を農業を使わず水耕栽培し、販売。しっかりした味わいが自慢だ。その他に、魚の養殖+水耕栽培のアクアポニックスという循環農業システムの販売や、太陽光発電による植物工場の実現に力を注いでいる。



大型ショッピングモールの敷地内にある一見普通のコンテナ内で栽培。洗わずにすぐに調理できるので飲食店からも好評だそう。



循環農業システム「アクアポニックス」

### ちむどんポイント

「進化する農業!」がちむどん!な理由

- 1 6次産業化により展開される商品から伝わるのは、沖縄食材の良さや価値。開発商品を世界にアピールするチャンスも!
- 2 食材のあらゆる可能性を広げてくれる6次産業化。若い世代ならではのアイデアや挑戦によりまだまだ面白くなる。
- 3 流通や小売り、パッケージデザインなど様々な業種と新たな展開に挑める6次産業化。あなたも参加できるかも!

もつ一つご紹介する進化は植物工場。室温や湿度などが制御された環境で、天候に左右されることなく安心で安全な食材を、安定的に生産出来る点が注目されています。大量生産やコスト面などの課題はあるものの、期待される取り組みです。生産者のためめ努力により進化を続ける農業。今後も目が離せません!

育てるだけじゃない! 農業の挑戦と進化

豊かな自然を有する沖縄県は、農業も盛んに行われています。その農業が進化していることをご存知でしょうか。まずご紹介するのが「6次産業化」。農業従事者が食品を加工し、販売まで行うことを指します。野菜や果物、肉、卵などの食材の味や価値をより多くの人に知ってもらったり、生産者が新たな可能性を見出すきっかけづくりにつながっています。

全国的に広がりを見せる6次産業化は、県内でも取り組みたいと意欲的な生産者がたくさんいますが、食材を加工し、流通に乗せ、販売することは未知の世界であり、また加工する際に必要な設備を揃える費用も大きな壁になっています。

沖縄県では、そんな生産者の悩みを解決しようと、商品開発するためのノウハウを指導する専門家を派遣したり、補助金を活用してもらったり取り組みを行っています。専門家の指導や勉強会を重ね、自分たちが作る食材の価値や、どんな風に食べてもらいたいのかを深く考えることは、生産者たちの意識の向上にもつながっています。そんな高い意識を持つ生産者が県の支援を終えた後もブラッシュアップを重ねたり、周辺地域の生産者にノウハウを指導するなど良い広がりを見せている事例もあります。